

(改定案)

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

(名称)

第1条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進することを目的として設置する。

(協議事項)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事項を協議する

- (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンに関する事項
- (2) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの実現に向けた管理運営方針及び行動計画に関する事項
- (3) 前号の行動計画に基づく取組の実施に関する事項
- (4) その他、前条の目的の達成のために必要な事項

(構成)

第4条 本会は、別添1に掲げる機関、団体等により構成する。

(会長)

第5条 会長は、北海道地方環境事務所長が務める。

(総会)

第6条 総会は、年1回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

- 2 総会の議長は、会長が務める。
- 3 総会は、第3条の事項について協議する。

(幹事会)

第7条 本会に、幹事会を設置する。

- 2 幹事会は、必要に応じて事務局が招集する。
- 3 幹事会の構成員は、別添2による。
- 4 幹事会は、総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行う。
- 5 幹事会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(改定案)

(部会)

第8条 本会に、部会を設けることができる。

- 2 部会の設置及び運営に必要な事項は、総会において決定する。
- 3 部会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会の事務局を、北海道地方環境事務所国立公園課に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。

附則

この規約は、令和6年8月27日から施行する。

この規約は、令和7年6月23日から施行する（構成員の一部変更）。

この規約は、令和8年 月 日から施行する（構成員の追加）。

(改定案)

別添 1

機関・団体等	構成員
学識経験者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署長
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課長
	北海道運輸局観光部長
	北海道地方環境事務所長
北海道	環境生活部長
	日高振興局長
	十勝総合振興局長
市町村	帯広市長
	日高町長
	平取町長
	新冠町長
	浦河町長
	様似町長
	えりも町長
	新ひだか町長
	清水町長
	芽室町長
	中札内村長
	大樹町長
	広尾町長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会 共同代表
観光関係団体	十勝観光連盟会長
	日高管内観光連盟会長
アイヌ団体	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長

(改定案)

別添2

機関・団体等	幹事会構成員
有識者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署総括事務管理官
	十勝西部森林管理署総括事務管理官
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課開発企画官
	帯広運輸支局 首席運輸企画専門官(企画輸送・監査担当)
	室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官（総務企画担当）
	北海道地方環境事務所国立公園課長
北海道	環境生活部自然環境局自然環境課自然公園担当課長
	日高振興局環境生活課長
	十勝総合振興局環境生活課長
市町村	帯広市都市環境部環境室環境課長
	日高町日高総合支所地域経済課長
	平取町観光商工課長
	新冠町企画課長
	浦河町商工観光課長
	様似町商工観光課長
	えりも町産業振興課長
	新ひだか町総務部まちづくり推進課長
	清水町農林課長
	芽室町環境土木課長
	中札内村産業課長
	大樹町住民課長
	広尾町水産商工観光課長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会事務局長
観光関係団体	十勝観光連盟事務局長
	日高管内観光連盟事務局長
アイヌ団体	小川 哲也（公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長）
	木村 英彦（公益社団法人北海道アイヌ協会理事）

(アドバイザー)

学識経験者

アイヌ文化関係団体

登山関係団体又は山岳ガイド事業者

遭難対策関係団体

自然保護関係団体

観光関係団体又は観光事業者

交通事業者

経済関係団体

金融関係団体

その他、協議会が認める者

日高山脈襟裳十勝国立公園 登山道利用体験グレード ～2025年度版～

はじめに

日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレードは、日高山脈を登山しようとされる方が、**登山準備に当たって行動判断をするための目安**として、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会（※）が作成したものです。

日高山脈の特性に応じたものとして、6段階のグレード（グレードA～F）として整理しました。本グレードは、登山道の現況をふまえ、体力レベルと技術レベルを考慮して設定しています。

最新の情報を収集し、また本グレードも参考とし、無理のない登山計画を立てていただき、魅力ある自然を後世に守り伝えていける登山を心掛けましょう。

※日高山脈襟裳十勝国立公園協議会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンの策定及びその実現を目指して、構成員が連携して取組を推進し、本公園の優れた環境の保全と適正な利用を推進するために設置された、官公民連携の協議会です。

グレーディングの設定表

タイプ	登山道					
グレード	グレードA	グレードB	グレードC	グレードD	グレードE	グレードF
概況	明瞭		一部不明瞭		沢、徒渉ルート、やぶこぎ、岩稜帯、細稜線	
体力レベル	短 → 長					
登山時間	短 → 長					
標高差	小 → 大					
技術レベル	低 → 高 → 極高					
迷いやすさ	低 → 高 → 極高					
難しい地形	少 → 多 → 極多					
含むコース	※2026年3月現在、グレードAに当てはまるコースはありません。	アボイ岳 ペケレバツ岳 剣山 伏美岳 (登山口から) 猿蓑山道 樺山山道 ピンネシリ ★参考 旭岳	十勝幌尻岳 豊尻岳 身室岳 久山岳 アボイ岳～ピンネシリ ★参考 トムラウシ山 (短縮コース登山口) 十勝岳	北戸髯別岳 (千呂露川二岐沢コース) 寒古岳 神威岳 ペテガリ岳 (ペテガリ山荘から) 豊尻岳 (観音岳経由)	幌尻岳 (千呂露川二岐沢・額平川・新道コース) コイカクシュサツナイ岳 ピパイロ岳 (トムラウシ沢林道から) チロロ岳	カムイエクウチカウシ山 1839峰 幌尻岳 (伏美岳コース) イドンナップ岳
求められる装備	雨具、行動食、防寒着、携帯トイレ、コンパス、紙地図、GPS、ツェルト（緊急避難用の簡易テント）、クマ対策道具（クマ鈴・ホイッスル・クマ撃退スプレー等）					
	沢靴やヘルメット、泊の装備（非常食含む）					

コースの留意事項

【共通事項】

多くのルートでササ、ハイマツ等のやぶこぎがあり、登山道が不明瞭で道に迷いやすい箇所があります。

【マーク解説】

➤ (徒) 徒渉マーク

川・沢を横切る場所があり、降雨時、雨後には、増水のため通行困難となる場合があります。

➤ (沢) 沢登り・沢歩きマーク

沢歩き、沢登りがあり、沢靴、ヘルメットが必要になります。降雨時、雨後には、増水のため通行困難となる場合があります。

➤ (やぶ) やぶこぎマーク

植物が密集した場所をやぶこぎで通過する場合があります。登山道が不明瞭で道に迷いやすく、通過に時間がかかります。

➤ (岩) 岩稜帯マーク、(急) 急斜面マーク、(ヤセ) ヤセ稜線マーク

滑落の危険性があるため、注意して通行しましょう。

【コース別】

● 十勝幌尻岳 (徒、沢)

・ルートの取り付きがわかりにくい場所があるため注意しましょう。

● チロロ岳 (徒、沢、やぶ)

・山開き後も残雪が残っていることが多いため、情報収集に留意しましょう。

● 幌尻岳 (伏美岳コース※伏美岳・ピパイロ岳含む) (やぶ、岩、急、ヤセ)

・伏見岳避難小屋へ繋がる林道は、現在災害復旧工事を実施しており車両通行できません。工事状況によっては徒歩での通行を規制する場合があります。通行の際は、最新情報を確認しましょう。

● 幌尻岳 (額平川コース) (徒、やぶ、急、ヤセ)

・北海道電力の取水施設から幌尻山荘まで多数の徒渉があり、沢靴、ヘルメットが必要です。水量が多いため増水に注意しましょう。

● 幌尻岳 (千呂露川二岐沢コース※北戸髯別岳含む) (徒、急、ヤセ)

・登山口から北戸髯別岳の区間のうち、登山口からヌカピラ岳にかけては、沢筋を歩くため足元に注意しましょう。また、季節、悪天候等による増水にも注意しましょう。
・幌尻岳 (千呂露川二岐沢コース) の日帰り登山は、登りだけで9時間以上を要し、暗い中での沢筋歩きを伴うなど、大変危険です。

● イドンナップ岳 (徒、沢、やぶ)

・登山口手前にある専用林道等には決壊箇所があるため、徒歩による通行をする際は注意しましょう。

● 神威岳 (徒、やぶ)

・複数回の徒渉があり、沢靴、ヘルメットが必要です。道道 348 号野深沢伏停車場線は路肩の崩壊のため、当面の間、徒歩を含め通行止めの情報があります。通行の際は、最新情報を確認しましょう。

● ペテガリ岳 (やぶ)

・本グレードは、ペテガリ山荘からペテガリ山頂までの区間を想定した評価になります。
・ペテガリ山荘に至る経路について、道道111号静内中札内線は、現時点で徒歩も含めて通行止めです。
・神威山荘方面からのルートについて、道道 348 号野深沢伏停車場線は路肩の崩壊のため、当面の間、徒歩を含め通行止めの情報があります。通行の際は、最新情報を確認しましょう。

● ペケレバツ岳 (やぶ)

・登山口周辺の道が不明瞭です。注意しましょう。

● 芽室岳 (急)

・分岐からパンクヌーシ岳にかけて未整備の箇所があります。

● 久山岳 (やぶ)

・登山口から道が錯綜しています。山頂へ至る道もやぶで不明瞭です。

● 剣山 (急)

・ロープ等はありませんが、過信しないようにしましょう。

● カムイエクウチカウシ山 (徒、沢、やぶ、岩、急)

・登山ルートに続く道道は、歩行者を含め通行止めになる場合があります。
・徒渉箇所が複数あるため、増水に注意しましょう。

● 1839峰 (沢、やぶ、岩、急、ヤセ)

・ルートが長く、日高山脈の中でも特に険しい場所です。
・ルートが不明瞭な箇所があります。ゴルジュ（岩壁に囲まれた細い川筋）を回避するルートを通りましょう。

まず留意いただきたい 5つのこと

1. 十分な知識と経験を備えていますか？

- ・登山に関する十分な教育を受けたり、自己学習を深めたりすることにより、**十分な知識と経験を備えている登山者を前提**としています。
- ・知識、経験に不安のある方は、登山計画を変更することや山岳ガイド・熟練者に同行を依頼することを検討してください。

2. 地図を使いこなしてルートの判断ができますか？

- ・標識はありません。GPSはもとより、**コンパス・紙地図**を用意し、それを使いこなし、**適切に判断できる地図読み**の能力が求められます。

3. 緊急時の装備と危機管理の判断ができますか？

- ・エスケープルートや避難小屋は限られています。ツェルト（緊急避難用の簡易テント）・非常食などの緊急時の装備を携行し、**使いこなせること**が求められます。
- ・悪天候や体調不良等による危険を適切に評価し、**登山中止を判断**できる能力が必要です。

4. 気象・気候への備えはできていますか？

- ・多くの山が標高1,900m前後ですが、緯度が高い（北に位置する）ため、気象や気候は本州の3,000m級にも匹敵します。
- ・山の天気予報を事前に確認し、**防寒着・手袋・帽子**などの適切な装備を準備してください。
- ・本グレードは、無雪期・好天時を前提として作成しているため、**残雪の可能性も事前に確認し、必要な対策**をとってください。

5. 入山前にもう一度確認しましょう。

- ・登山ルートの通行や山頂への到達の可否、通行上の安全を保証しているものではありません。
- ・入山前に北海道警察へ登山計画書を提出し、また、登山口に入林簿がある場合は記入をしてください。
- ・**必要な準備を行った上で、自己の責任**において入山してください。

コラム：ヒグマへの対応について

- 日高山脈襟裳十勝国立公園は、ヒグマが高密度で生息している場所です。
- やぶこぎや沢歩きが多くヒグマとの遭遇リスクが高い上に、エスケープルートや避難小屋も限定されます。
- 日高山脈では、過去にカムイエクウチカウシ山で3名の登山者が亡くなる事故も起きています。
- ヒグマとの事故を回避するためには、**正しい知識と対処方法を身につけて行動**することが、効果的です。

●事前の準備

- ・市町村や警察のホームページ等で最新のヒグマの出没状況を確認し、危険があれば計画を変更しましょう。
- ・食料は密閉した袋やフードコンテナに入れ、クマ鈴やホイッスルを装備しましょう。また、クマ撃退スプレーは適切な性能を有するものを準備し、事前に使い方を確認しておきましょう。
- ・クマ撃退スプレーは、いざという時にすぐ使うことができる場所に携帯しましょう。
- ・複数人で行動し、また離れないようにすることも、事故を防ぐために効果的です。

●ヒグマと遭遇しないために

- 1. 人の存在を知らせる**
 - ・声やクマ鈴・ホイッスルで人の存在を知らせる
 - ・特に沢治い・やぶ・視界の悪い場所に注意する
 - ・薄暗い時間帯の行動を避ける
- 2. 周囲に気をつける**
 - ・周辺の音や気配に常に注意する
 - ・新しいヒグマの痕跡(足跡、糞など)を見つけたら、より警戒し、場合によっては引き返す
- 3. ヒグマを誘引しない**
 - ・食料の匂いを漏らさないよう工夫する
 - ・匂いの強い食事は特に危険
 - ・ゴミは必ず持ち帰る

●ヒグマと遭遇したときには

- 1. 冷静に対応！**
 - ・慌てて走るのは危険(ヒグマが興奮して追いかけてくる場合がある)
 - ・ヒグマを興奮させないよう静かに話しかけ、様子を見ながら距離を保って静かに立ち去る
- 2. 万が一に備える！**
 - ・ヒグマが接近してきたらクマ撃退スプレーを構える(有効距離は約5m)
 - ・万が一襲われた場合は防御姿勢をとる

詳しくは



ヒグマ対処法
(知床財団)



クマ類に遭遇した際にとるべき行動
(クマ類の出没対応マニュアル-改定版- (環境省) 抜粋)



クマ撃退スプレー



クマ鈴

日高山脈襟裳十勝国立公園 登山道グレーディングマップ

※本グレーディングマップは、登山利用をするにあたっての判断の目安として作成したもので、登山地図としての利用はできません。

■主なアクセス道

- 一般道
- - 一般道(車両通行止め・徒歩通行可)
- ⊗ 一般道(全面通行止め)
- 🚌 シャトルバス区間
- 専用林道等(一般車両通行可)
- 専用林道等(一般車両通行可・期間等の制限あり)
- - 専用林道等(徒歩のみ通行可)
- ⊗ 専用林道等(全面通行止め)

■凡例

- ★ 徒渉
- ☆ 沢登り
- ★ やぶこぎ
- ★ 岩稜帯
- ★ ヤセ稜線
- 国立公園境界
- 🏠 山小屋

・専用林道等は、森林の整備等のための業務用道路であり、「見通しが悪い」、「道幅が狭い」、「ガードレールがない」など一般道とは異なります。
 ・落石、土砂、倒木等によって通行が妨げられることや事故につながる危険性もあります。事故防止のため、十分に減速するなど防衛運転を徹底し、自己責任で通行してください。
 ・通行の際は、最新情報を確認しましょう。

■最新の通行状況はこちらのサイトをご参照ください。



『道路情報提供システム』
国土交通省

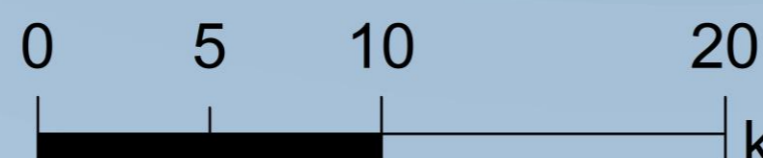


『登山等に関する通行規制等について』
北海道森林管理局

■利用体験グレード

- F グレードF
- E グレードE
- D グレードD
- C グレードC
- B グレードB
- A グレードA
- 👣 探勝歩道

注1) 本グレーディングマップの利用体験グレードは、日高山脈独自の基準をもとに設定したもので、ほかの国立公園の登山道グレードと単純な比較はできません。
 注2) 本グレーディングマップは無雪期を想定して作成しています。季節によってやぶの有無などの難易度に変化が生じるルートがあります。
 注3) 破線表示のルートは国立公園区域外であることを示しています。
 注4) 注意箇所は大まかな位置を示したもので、必ずしも実態と同じではありません。また、沢登りや徒歩には高度な技術を要する場合があります。
 注5) ペテガリ岳登山口に通じる一般道及び林道は徒歩を含めて通行止めとなっています。



この地図は地理院地図Vectorを加工して作成しました



日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード 検討経緯

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会事務局
(北海道地方環境事務所国立公園課)

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回登山道部会において、原生性の高い自然環境が多く残されている一方で、難易度の高い登山道が多く存在する日高山脈襟裳十勝国立公園における、原生性を維持した適正な登山利用のあり方に係る検討に際して、登山者が登山利用をするに当たって行動判断する目安となる、登山道等のグレード設定の必要性が提起された。

これを踏まえ、登山道部会において「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード」について議論を行った。また、これに先立ち、有識者等により構成されるワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置して「グレードのたたき台」の検討を行った。

検討経緯

【協議会第1回登山道部会】（6月23日）

- ・有識者よりグレーディングの取組事例紹介
- ・部会で議論する「グレードのたたき台」を検討するためのWG設置を決定

【第1回WG】（9月3日）

- ・グレード設定・対象路線の考え方の確認
- ・グレード区分案初版の検討

【第2回WG】（9月18日）

- ・第1回WGの議論を踏まえたグレード設定の考え方（修正版）の確認
- ・グレード区分案改訂版（体力レベル・技術レベルの2軸）の検討

【第3回WG】（11月27日）

- ・グレード区分案3訂版（考慮すべき要素を基にしたポイント制）の検討

【協議会第2回登山道部会】（12月22日）

- ・WGが作成したグレードのたたき台に基づき協議

【第4回WG】（2月18日）

- ・協議会第2回登山道部会の指摘を踏まえた再検討

【協議会第3回登山道部会】（3月4日）

- ・第4回WGの再検討結果を踏まえた案について協議

【協議会第3回幹事会】（3月4日）

- ・協議会第3回登山道部会での議論を踏まえ事務局が修正した案について、書面で再確認することを確認

【協議会幹事会・登山道部会による書面確認】（3月13日～23日）

- ・事務局による修正案について確認

【協議会第3回総会（書面協議）】（3月24日～4月9日）

- ・日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード（案）について書面協議

令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園登山道等グレード設定ワーキンググループ

【メンバー】

- ・愛甲 哲也：北海道大学教授
- ・高橋 健：登山家
- ・高柳 昌央：登山家・山岳ガイド
- ・谷水 亨：登山家・山岳ガイド・山岳ライター
(帯広自然保護官事務所アクティブレンジャー)

【関係機関（主な土地所有者）】

- ・日高北部森林管理署
- ・日高南部森林管理署
- ・十勝西部森林管理署
- ・日高振興局森林室

【環境省】

- ・北海道地方環境事務所国立公園課、帯広自然保護官事務所、新ひだか自然保護官事務所

【事務局】

- ・アジア航測株式会社